山本地区ＪＡ合併研究会を設立

ＪＡあきた白神

ＪＡあきた白神とＪＡ秋田やまもとの合併に向けた「山本地区ＪＡ合併研究会」の設立会が３月19日プラザ都で開かれ、両ＪＡとＪＡ秋田中央会、農林中央金庫秋田支店から51名が出席しました。はじめに佐藤組合長が、「合併の進め方について、さらに議論を一歩進めたい。主役である組合員には決まったことは詳しく丁寧に知らせていきたい」と述べました。

研究会の会長には佐藤組合長が選任され、研究会は両ＪＡの理事ら14名で構成されます。また、幹事会の下に、総務企画、金融共済、営農販売、購買、生活福祉の５検討部会を設け、部会ごとにプロジェクトチームを置き協議を重ねていきます。

▲両ＪＡの課題等について今後話し合われる

▲ 27 年度に向け協議を重ねる生産者

平成27年度へ向けて協議

大豆生産組合

あきた白神大豆生産組合（高橋信男組合長）による臨時総会が３月20日に開催され、平成26年度の事業報告や次年度の事業計画などについて協議され、全議案が承認されました。27年度計画では、現地巡回や研修会などを開催し、部会一丸となって高品質の大豆生産に取り組む事が実績決議されました。

その後開かれた事業検討会では、参加した全農秋田県本部園芸課の千葉調査役から「圃場管理の徹底により１等級の比率が27.7%と全県でダントツの数字となっており、各業者からも白神産の大豆を使いたいという声がかかっている」と話があり、今後の大豆栽培の取り組みの励みとなりました。

健苗育成に向けて管理を説明

ＪＡ稲作部会

ＪＡあきた白神稲作部会（堀内直富久部会長）は育苗期を迎えるにあたり育苗技術向上や栽培に向けた注意点などを説明する、水稲育苗技術講習会を開催しました。

講習会では、山本地域振興局の中村氏が「４～５月は気温が低く降水量が多くなることが予報されているので、ハウス内の温度管理の徹底や極端に作業を早めないようにしてほしい。」と注意を呼び掛けていました。

「苗半作」と言われるように、苗の出来が作柄に大きく影響するため、温度や水の管理を徹底し、太くずんぐりした苗を育てるために参加者らは講師の話に耳を傾けていました。

▲天候に左右されない健苗育成に向け要点を確認

▲県内一の産地を目指し生産者が協力

りんどう部会が設立

ＪＡあきた白神りんどう部会

ＪＡあきた白神のりんどう部会設立総会が３月24日、藤里町総合開発センターで開催されました。りんどう栽培は現在、藤里町でのみ行われていますが能代市の生産者も新たに取り組むことになり、安定生産や所得向上などを図るために部会を新設することになりました。

設立総会には生産者やＪＡ、来賓など合わせ23名が出席し規約案や27年度の事業計画・予算案等を承認し、役員の選出をしました。部会長には菊地昇一さんが選出され、「生産者が増えることで市場のニーズに応えることができる。目揃会などで品質の統一を図り高品質のりんどうを出荷したい。」と話しました。

蟹座（6・22～7・22） 新しい人脈を開拓できる時期。飲み会やオフ会などには気軽に顔を出して。ツアー旅行に参加してみるのも幸運